

ゆらく

描くとゆうこと

糸田 玲子

描くことが生活の中に入ってから73年たってしまいました。読書も楽しい、水泳も楽しい、と思うけど、やっぱり描くことが一番楽しいと実感している。でも、でもです。描き上がったときは時にうまくいったと一応は満足したりする。しばらくたつとアラアラ、段々と気に入らない所が出てきて……。アアどうしていつもこうなんだろう一度で良いから私の傑作と思いたいのに、と落ちこんだりする。でも、その気持ちが次のステップになると思いなおして、又、描いて行く。ひそかに「私のつぶやき」いつも自分に正直に、失敗を怖がらず、勇気を出して思いついたことを、ためらわずに描いてゆきたい。コレ、耳タコの人もあるかもしれないけど、これを信条に、これからも描きつづけてゆくつもりです。

終わりに会報のスタッフの方々に感謝！

何時の間にか！

岡田 菊恵



最近思うんですが、日本的油絵表現が多くなった事です。大まじめに集団でやっていると感動ものです。表現は自由だからと言っても不安です。油絵具とキャンバスを使えば油絵ですが、描く前の内容であり空間把握の事です。偉くなればだれも何もいなくなるし悲しいです。何時の間にか根本の所が不在となりこれ今、生きてる画家の責任です。



4月のバラ
2014

アートアクション！

シンポジウム

テーマ「これからの女流画家協会展」

講師：南 薫先生（女子美術大学教授）

日時：2014年6月29日（土）

13:30 - 15:30（開場 13:00）

会場：東京都美術館講堂

第67回 女流画家協会展

2013年6月29日(土)～7月6日(土)

東京都美術館(上野)

第67回展は、総展示数約640点、多くが大作で占められ、入選作は力作揃いで活気があった。

会期中に総会、会場でのギャラリートークを開催。今年は初の抽象画を描くワークショップが行われ、参加者の反応は大きく、引き続き行われる予定。

女流画家協会秋田角館展

2013年7月13日(土)～8月10日(土)

秋田県仙北市立角館町平福記念美術館



展示会場

展覧会ポスター

秋田県仙北市角館、武家屋敷が並び観光客の行き交う通りに面した所に、会場となる角館町平福記念美術館はありました。女流画家協会巡回展、初日は、東京、秋田、周辺の県などから出品者や関係者が集まり、オープニングセレモニーが行われました。大雨による川の増水の影響で新幹線が遅れ、開始時間が遅れましたが、約40人ほどの方々が集まりました。

まず、秋田県仙北市の市長、門脇光浩様よりお言葉をいただき、そのあと事務所の塩川慧子氏の挨拶、係の堀岡氏の挨拶、そして仙北市市議会議長の佐藤峰夫様にお言葉をいただきました。角館の方々、女流展の角館での開催を大歓迎してくださっておりました。

テープカットの後、ギャラリートークになり、出品者が順番に各作品の前で自作を語りました。

セレモニーは1時40分頃から始まり、3時過ぎにギャラリートークが終了。それぞれ美術館でゆっくりと時を過ごし、4時に送迎バスで花葉館へ。

花葉館での懇親会は全員着席し、ゆったりした雰囲気の中、各氏の挨拶に続き乾杯。地元のお料理に舌鼓を打ちながら、和やかな懇親会の場となりました。(岸)

祝 入江一子先生(97歳)

平成25年度100周年記念大村文子基金

“女子美栄誉賞”特別表彰



会期が7日間は大きな団体としては短すぎるのが残念である。また、審査から初日までの日数が短かく、入落の通知が出品者に届くのが遅いことを憂慮している。今後も継続して東京都美術館に改善を求めていきたい。



美術館入口



オープニング・テープカット

女流画家協会秋田・角館展開催によせて

仙北市立角館平福記念美術館係長 小松 亜希子

仙北市立角館町平福記念美術館は町づくり対策特別事業の一環として建築され、昭和63年に開館しました。設計者は国立能楽堂、法政大学などの設計で知られる大江宏氏です。



「平福記念美術館」という館名は、仙北市(旧角館町)出身で近代日本画の巨匠といわれる平福徳庵(ひらふくすいあん)・百穂(ひやくすい)父子に由来しておりますが、平福父子と共に日本洋画の曙光といわれる小田野直武(おだのなおたけ)や徳庵・百穂門下をはじめ多くの郷土画人を顕彰しております。また、現役作家やこれからの若い芸術家たちの発表の場としても広く活用しております。

このたび、ご縁があり2回目となります「女流画家協会秋田角館展」を開催できましたことは館にとって、とても有意義なことであり、開催にあたりご尽力くださいました協会の皆さまに心より感謝申し上げます。



ギャラリートーク



懇親会

次回巡回展開催 「女流画家協会相模原市展」 2014年10月31日(金) - 11月11日(火) 相模原市民ギャラリー



女流画家協会賞「光に染みて」100 S

佐藤 みちる (東京・会員)

作品のテーマは光と形態の関係です。支持体はパネル。下地は白亜地。油絵の具での描写は筆も使いますが、際やぼかす部分は指で線をひいたり、絵の具を伸ばしたりとフラットな画面作りに徹しています。青森出身なので色彩を抑えたモノクロの世界が自分の中でじっくりくようです。透明な物体の屈折率や反射率の違いによって形が出たり、弱まったりするガラス、アクリル板、水等の存在感を追求し表現していきたい。これからも女流展、独立展、コンクールなど、そして個展にも挑戦していきたいと思っています。(遠藤・大塚)



大住閉子賞「13 心の旅」100 S

桑野 幾子 (石川・会員)

永年のモチーフ「心の旅」は、今一番気になる事をいかに表現するかがテーマです。網の目を画面いっぱいに描き、アクリルガッシュで彩色し、立体的空間を構成しています。今回から一重の網から二重に重ね、更に異質な部分をカラージュをいれたごとく描きこみました。今まで一人称だった画面が二人称になり、まったく異なった平面的表現が入ってきました。3・11大震災後、特に人々の支え合いや、ひとは一人では生きられないという思いを強く感じた表れです。作風を変えて賞をもらった事がうれしいです。(笹森・山本)

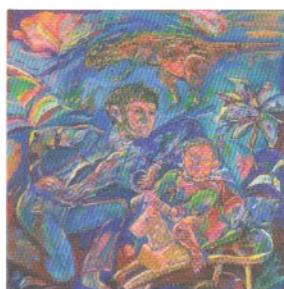


大村文字子賞「Knecht Ruprech」130 F

深井 富美子 (秋田・会友)

「Knecht Ruprech (クネヒト・ループレヒト)」とは人名ですが、悪い子どもをさらうサンタクロースのこのように、作品右下の暗い部分に表現しました。シューマン作曲の「Knecht Ruprech」を小学4年の長男がピアノで演奏しており、この曲調を色や形に置換して描いたのがこの作品です。アクリル絵の具で下地づくりをした後、油絵の具を使用して木のパネルに描いており、部分的に彫刻刀で彫ったりもしています。(笹森・山本)

インタビュー 画 ガール



奨励賞「私たちの会話 2013 父子」100 S

菅原 陽子 (青森・会友)

人と人、人と動物、人と電子機器を配して何らかのコミュニケーションを発する空間「私たちの会話」を、30年近くテーマにして描いています。自分にとって関わるもの、タイムリーに感じているものを素材にしています。孫の誕生を機に、今までになかったほんのりとしたファミリーの暖かさが加わった作品が出来上がりました。東日本大震災、人と人との繋がりをより深く感じるようになりました。ユーモアを忘れず、ポップな画面でその繋がる会話を表現していきたいと思っています。(遠藤・大塚)



初出品 初受賞
トークロ東美賞「漂着」
120 F

近藤 オリガ (愛知・一般)

私は2007年に来日するまでベラルーシ国内及び欧州で活動してきました。小さい頃から芸術、音楽、文学が話題となる環境で育ち、画家としての道を歩むことを決意し今日に至っています。「漂着」に描かれている商隊と砂漠、これは何がであろうとも進んでいく永遠の遊牧民、永遠の巡礼の象徴。古い船は「人」だけでなくその人の活力のすべて、その人の人生、その人が生きた世界の象徴。(遠藤・大塚)



初出品 初受賞
クサカベA賞「Tidal-Wave」100 S

鳥居 隆子 (奈良・一般)

「タイダルウェーブ」(心のなかに起る津波の様な感情)をアルミ素材で表現しました。アルミの平板の上に同質なジャバラ状の筒を木づちを叩いて整形して構成し、無機質な画面をコンプレッサーで陰影をつけ、アクリル絵の具で彩色を入れたりして、感情変化の波を表現した作品です。透明アクリルの角材で額縁も「夫し取り付けたたり、各々の素材を使いこなす仕事も今後研究して次の作品に続けて行きたいと思っています。オリジナリティも大事に今の感情を思い切り作品に表現できるよう努力していきたいと思っています。(笹森・山本)

第1弾! ワークショップ — コラージュによる抽象画を描こう!! — レポート



2013年7月5日(金)
東京都美術館2階 スタジオ



作品 制作中



制作中



講評中

第67回展の関連事業の一環として、会期中にはじめてのワークショップを企画しました。昨年のアンケートの中に「抽象画がわからない」というのがあり、それに応える形でワークショップのテーマも「あなたも抽象画を描いてみませんか!」と呼びかけたものです。希望者には当日までにイメージや素材について考えてきてもらい、25名の参加者をむかえ、導入のレクチャーと説明。約100分の制作時間と個別アドバイスなど。その後イーゼルに作品を並べ、お互いに鑑賞してから各自の感想発表や講評をまじえ和気藹々、時間が足りませんでした。活気に満ちた作品群と意見交換は女流のはじめての企画として大きな意味があったと思います。自分で体験することで、これから抽象表現への理解を深め、鑑賞や制作に役立てていただければ幸いです。(継岡)

担当: 継岡リツ(委)、高橋和(委)、岩瀬ゆき(会)

第2弾! ワークショップ 参加者募集 (定員25名・要予約)

日時: 2014年7月4日13時~16時 会場: 都美術館2階 スタジオ

抽象画を描いてみましょう!! 担当: 佐々木理加(委)、林素子(委)

追悼 水野 恭子さん ご冥福をお祈りいたします

二人で初めてのヨーロッパ旅行をいたしましたのが、四十年前。パリから始まり、イスタンブールまででした。女子美術大学、独立展、女流画家展、美術講師と同じ道を歩いてきました。岡山県「?」山市出身の方で、よく気のつくやさしい方ですが、女流画家として頑張られた強い性格をもち合わせ、すばらしい作品を発表されました。私より5才年下の様ですので、女流画家として活躍を期待いたしておりました。ご冥福をお祈りいたします。(入江一子)

第3室の部屋にはいり、ふと心に止まった小品。たて長の淡い色調。どなたの?裏面に「水野恭子」と。遺作との出会い不思議な縁を感じました。かつて前事務所として、あたたかく的確なご助言をしばしば...。今深く感謝、有難うございました。!! (吉江麗子)

水野さんは戦死した兄と同じ年だった。晩年、桜の絵がテーマとなり、独立展や女流展で発表され見事でした。ある時、桜を描きたいという話を伺い、丁度私も資料を多少集めていたので、早速差し上げる事にした。お役に立ち良かったと思った。天国でも桜を描き続けて下さい。(岡田菊枝)

水野さんは終生「さくらの命」をテーマに制作を進めていらっしゃいました。古木の枝を構成の軸に置いた優しくも大胆な作品、インテリジェンスにあふれたお人柄でした。女流画家協会展の作品の山を前にすると、ふと水野事務所の時のように、彼女の落ち着いた声が聞こえるような気がするのです。(重石見子)

水野恭子賞が67回展から10年間設けられ、先生の志が後輩に受け継がれることになりました。先生の仕事ぶりは立派な画集に集約されています。晩年は桜の木をテーマに力強く静寂繊細な観察を秘めた魅力が画面に溢れています。私は2000年から5年間、青梅市立美術館での7人展でご一緒させて頂いたことが印象に残ります。事務所を引き受け、会の為に奔走、特筆する事は展示の合理的な方法を統計表に作成、現場も役に立って貢献度大です。先生のご冥福を祈ってやみません。(高尾みつ)

故 水野 恭子 画歴

- 1921年 岡山県勝央町勝田に生まれる
 - 1941年 女子美術専門学校教師範科西洋画部卒業
 - 2005年 岡山県勝央美術文学館にて「水野恭子特別展」開催(勝央美術文学館主催)
 - 2013年 4月5日、自宅にて逝去(92歳)
- 独立展会員、女流画家協会委員



1993年 女流画家展 出品作品「花咲く樹」100S



編集後記 地球上で異常気象が起こっています。今年は何事もないようお願いしたいものです。会報は、会の発展、博雅を予感させるものであり、多方面への働きかけをしています。未来に向けてアクションを起こしましょう。女流画家協会に対するご感想やご意見、情報をお寄せ下さいませ。(H)

女流画家協会 会報 vol.2 - 2014.2/1

発行日: 2014年2月1日

発行: 女流画家協会

編集委員: (委員) 上條陽子、徳植久子、
(会員) 遠藤茂子、大塚章子、笹森文、山本和子

女流画家協会事務所

堀岡正子方

〒239-0801 横須賀市馬堀海岸2-17-4

TEL・FAX: 046-844-0310

<http://joryugakakyokai.com>